

「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議のまとめ)」に対する、国立大学図書館協会会員館の取り組み状況(令和5年12月現在)

令和6年1月
国立大学図書館協会総務委員会取りまとめ

No.	大学名	取り組みと関連する「審議のまとめ」の項目	キーワード	取り組みテーマ	具体的な内容	取り組みと関連する国大協ビジョン2025の重点領域・目標	URL・文献情報等	その他
1	金沢大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Gold OA-転換契約	転換契約の導入	令和6年1月からSpringer-Nature社、令和6年4月からElsevier社との転換契約を導入し、本学のリポジトリへの投稿と併せ、学術論文のOA化を推進する。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存	https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=41094 https://library.kanazawa-u.ac.jp/?p=44272	
2	豊橋技術科学大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Gold OA-転換契約	オープンサイエンス支援	電子ジャーナルの契約を転換契約に移行し、著者のオープンアクセス論文出版費用を支援。 SpringerNature(2024~2025年)、Wiley(2024年)、Elsevier(2024年度~2026年度)	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存	https://lib.tut.ac.jp/ejournal/os.html	
3	鹿児島大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Gold OA-転換契約	(特になし)	・電子ジャーナル大手3社(Elsevier社、Wiley社、Springer Nature社)との転換契約を2024年1月以降順次行う予定である。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存 重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上		
4	宇都宮大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Gold OA-転換契約, オープンアクセス-Green OA	学術論文のオープンアクセス化	教員から提供された論文の機関リポジトリへの登録を引き続き進めている。今年からOxford University PressとRead&Publish 契約を結び、ゴールドOAへの対応も開始した。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存		
5	信州大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Gold OA-転換契約, オープンアクセス-Green OA	オープンアクセス支援	機関リポジトリでのオープンアクセスを引き続き推進するのに加えて、2023年より出版社との転換契約を導入し、研究者がオープンアクセス出版の際の財政的負担を軽減している。2024年からは、電子ジャーナルの持続可能性との両立を目指した「オープンアクセス費用サポート制度」の導入が決定している。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存	https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/research-support/apc-discount.html https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/research-support/openaccess-repository.html	
6	鹿児島大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Green OA-管理基盤整備	(特になし)	・機関リポジトリを通じた成果物の公開に取り組んでいる。今年度に発出が予定されている「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針」が出次第、本学での規程類の整備を行い、取り組みを強化していく予定である。 ・機関リポジトリにおける永続的な公開を担保するための取り組みの一つとして、永続識別子(CNRI Handle、DOI)を活用している。 ・今年度、機関リポジトリシステムがJAIRO Cloud(WEK03)へ更新され、研究データのメタデータ記述を詳細に行える環境となった。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上		
7	香川大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Green OA-管理基盤整備, オープンアクセス-ポリシー策定	香川大学学術情報リポジトリ(OLIVE)の機能強化	オープンアクセス推進のため、2022年7月から香川大学学術情報リポジトリ(OLIVE)搭載コンテンツへのDOI(デジタルオブジェクト識別子)付与を開始した。あわせて、リポジトリの説明サイトを新設し、Microsoft365のFormsによる「論文掲載登録フォーム」から、登録・ファイルアップロードができるようにした。 今後は、機関リポジトリを通じた学術論文等のオープン化を更に推進するため、大学としてのオープンアクセス方針策定と、リポジトリシステムの高度化を目指す。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存	・香川大学学術情報リポジトリ(OLIVE)登録コンテンツへのDOI付与サービス開始について(2022/09/16) https://w3.lib.kagawa-u.ac.jp/index.php?key=jo5d9dnwi-527#_527 ・香川大学学術情報リポジトリ(OLIVE)へのコンテンツ登録フォーム開設について(2022/09/16) https://w3.lib.kagawa-u.ac.jp/index.php?key=jo4hvhocp-527#_527 ・ジャーナル掲載論文のオープンアクセス化とDOI付与について(2023/12/26) https://w3.lib.kagawa-u.ac.jp/index.php?key=jomov302m-527#_527 ・「DOI登録の事例紹介」講演2:香川大学学術情報リポジトリにおけるDOI事始め(ジャパンリンクセンター「対話・共創の場」(第9回)(2022年12月15日開催)報告資料 https://japanlinkcenter.org/top/doc/2215_e_slide_2.pdf https://japanlinkcenter.org/top/event/event_past.html#s024 ・香川大学学術情報リポジトリOLIVEⅢ(+DOI)のすゝめ(パンフレット)(2022年8月作成) https://opac.lib.kagawa-u.ac.jp/www1/OLIVE/%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%95%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%8820220808.pdf ・香川大学学術情報リポジトリOLIVEⅢ(+DOI)のすゝめ(オープンアクセス広報ポスター/チラシ)(2023年12月作成) https://opac.lib.kagawa-u.ac.jp/www1/OLIVE/%E3%83%9D%E3%82%B9%E3%82%BF20231218.pdf	
8	大阪大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Green OA-研究者支援	GreenOAラボ	機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫OUKA」への論文登録を進めるため、研究推進部とともに、モデルケースとして特定の研究室を選出し、集中的に支援を行うことで研究室単位でのグリーンOA化を令和4年度から進めている。すでに8研究室等から237件の論文登録が実現している。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存 重点領域3.知の媒介 目標3-1)多様な人材との協働		
9	東京農工大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-ポリシー策定, 研究データ管理-ポリシー策定	「研究データポリシー」及び「オープンアクセス方針」の策定	全学委員会の下にWGを設置、令和5年度中に策定し、オープンサイエンスの推進を図る。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存	「研究データポリシー」及び「オープンアクセス方針」の公開先は、今後、検討予定としている。	

No.	大学名	取り組みと関連する「審議のまとめ」の項目	キーワード	取り組みテーマ	具体的な内容	取り組みと関連する国大協ビジョン2025の重点領域・目標	URL・文献情報等	その他
10	福島大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-ポリシー策定, オープンアクセス-Green OA	オープンアクセス方針の策定	本学における研究成果の公開に関する方針として、令和5年1月に「福島大学オープンアクセス方針」及び「オープンアクセス方針実施要領」を制定した。教員に対しては、リポジトリへの登録を依頼し、研究成果の公開を促進している。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存	・福島大学オープンアクセス方針について https://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/ir-info/OA/index.html	
11	山梨大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	研究データ管理-ポリシー策定	オープンアクセスの推進	データポリシーの作成と今後の運用方針について、関係部署と協議を行っている。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存		
12	群馬大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	研究データ管理-ポリシー策定, 研究データ管理-管理基盤整備	学術論文のオープン化推進	機関リポジトリを通じた学術論文のオープン化推進のため、令和4年度にオープンアクセスポリシーを策定し、教員による学術論文はリポジトリで公開することを明記した。令和5年度は、教員業績管理システムから論文情報を抽出し、Power Appsを活用して自動的にデータ整形する仕組みを構築してリポジトリ登録作業の効率化を図っているが、今後WEKO3に対応するため改修予定である。また、論文登録数を中期計画の評価指数に掲げ、大学が持つ知の資源の更なる拡充・共有を図っている。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上	・オープンアクセス等関連資料 https://gunma-u.repo.nii.ac.jp/page/38	
13	福島大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	研究データ管理-ポリシー策定, 研究データ管理-管理基盤整備	研究データポリシーの策定	DXに基づく研究データマネジメントを適切に行うためのシステム環境構築を目的として、「福島大学研究データポリシー」を今年度内に策定する方向で検討を進めている。今後、研究データ管理のための基盤システムの整備に向けて、検討を進める予定。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存		
14	豊橋技術科学大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	研究データ管理-ポリシー策定, 研究データ管理-管理基盤整備, コンソーシアム-研究データ管理	オープンサイエンス支援	研究データエコシステム東海コンソーシアムに参加。研究データ管理ポリシーの策定や研究データ管理の保存・公開方法について学内システム構築整備の検討開始。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存		
15	鹿児島大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	研究データ管理-ポリシー策定, 研究データ管理-研究者支援	(特になし)	・図書館を含む学内複数部署が協働した全学レベルの研究データ管理検討WGでの議論を経て、今年度、研究データポリシーの策定に至った。 ・研究データ管理のリテラシー支援の一つとして、学内へ学認LMSの研究データ管理教材を案内している。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上		
16	信州大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	研究データ管理-ポリシー策定, 研究データ管理-研究者支援	研究データポリシーの策定	研究データポリシー策定に向けた学内の部会を主導し、2023年3月に信州大学研究データ管理・公開ポリシーの策定を実現した。2023年度は、ポリシーの実施方針の策定に取り組むとともに、ポリシーの広報・FDなどを実施しており、その一環で附属図書館のウェブサイト内に「研究支援」のページを新設し、研究データ関連の情報を集約して発信している。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存	https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/research-support/	
17	三重大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	研究データ管理-ポリシー策定, 研究データ管理-研究者支援, コンソーシアム-研究データ管理	研究データポリシー策定に向けた取り組みと学内外の連携体制の構築	担当部署の研究推進部署と協働し、ポリシー策定を見据えた教員向けアンケート、研究データ関連FDを実施した。また研究データエコシステム東海コンソーシアムに加入し、他大学との連携強化を図っている。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存 重点領域3.知の媒介 目標3-1)多様な人材との協働		
18	山口大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-全般	貴重学術資料のオープンアクセスの推進	図書館が所有する貴重学術資料を教育・研究に活用するため、国際的な画像共有規格に準拠したデジタルコレクションで登録・公開するとともに、オープンアクセス化を推進する。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存 重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存		
19	群馬大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-全般	貴重資料のデジタル公開	中央図書館所蔵の貴重資料(新田文庫、田辺文庫、郷土かるたコレクション)をデジタル化し、リポジトリ及び専用アーカイブサイトへ掲載することで、非来館者への利活用を促進している。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上	・貴重書コレクション https://www.media.gunma-u.ac.jp/collections/special-collections/	
20	岡山大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-全般, 統合的発見環境, 電子資料整備	「総合知」の創出・活用を支える学術情報の統合利用環境の整備	岡山大学DX推進プランの一環として、以下の取り組みを行っている。 ・ディスクリバーサービス(統合利用基盤)の導入 ・電子書籍の整備拡充 ・池田家文庫等貴重資料のデジタル化(マイクロコンバート等)	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上	https://www.lib.okayama-u.ac.jp/resources/discovery.html	
21	香川大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-全般, 蔵書のデジタル化-管理基盤整備	「香川大学学術資産ポータル」試験公開	資料を発見しやすく・検索しやすくするため、香川大学学術リポジトリ(OLIVE)にて、当館所蔵コレクション「神原文庫」の書誌情報(メタデータ)、サンプル(サムネイル)画像、高精細画像(リンク情報)等を2023年4月から試験公開した。あわせて、神原文庫コレクションサイトをリニューアルし、当館で電子化済の40点の高精細カラーデジタル画像データを図書館ホームページ上で公開した。今後は、コンテンツのアクセシビリティと連携機能の向上を図るため、IIIF規格対応のオープンなアーカイブシステム構築を目指す。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信, オープン化と保存 重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上	・香川大学学術資産ポータル(試験公開) https://opac.lib.kagawa-u.ac.jp/www1/OLIVE/OLIVE_DigitalPortal.html ・香川大学学術情報リポジトリ(OLIVE)による神原文庫デジタルコンテンツ等の検索利用について(2023/05/22) https://w3.lib.kagawa-u.ac.jp/index.php?key=johbod5z4-527#_527	
22	福島大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-所蔵資料デジタル化	日本語の歴史的典籍データベース構築作業	国文学研究資料館と提携し、本学保有の歴史的典籍をデジタル画像処理を行い、Webサイト「国書データベース」(https://kokusho.nijl.ac.jp/)においてオープンデータとして公開している。このことにより、研究者のみならず一般市民にも利用可能なコンテンツとして幅広く利用されている。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存		
23	三重大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-所蔵資料デジタル化	国文学研究資料館歴史的典籍NW事業への参画	当館貴重書のうち江戸時代以前の和古書の一部についてデジタル化を行い、国書データベースのプラットフォームから公開するための準備を行っている。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上		

No.	大学名	取り組みと関連する「審議のまとめ」の項目	キーワード	取り組みテーマ	具体的な内容	取り組みと関連する国大協ビジョン2025の重点領域・目標	URL・文献情報等	その他
24	東京大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-管理基盤整備	デジタルアーカイブ公開システムの機能強化	デジタルアーカイブのポータルサイトである「東京大学学術資産等アーカイブズポータル」、デジタルアーカイブの公開基盤である「共用サーバ」、および「東京大学学術資産等アーカイブズ」リンク集の機能を統合・強化したシステムへの移行準備作業を進めている。統合後のシステムは令和6(2024)年5月に公開予定である。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上		
25	金沢大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-活用支援	「お宝発見！プロジェクト」支援事業	金沢大学の教員の研究・教育テーマのシーズ探しを目的として、附属図書館所蔵の貴重資料等を活用した年5件程度のプロジェクトに対して研究費等の支援を行う事業。この事業を通じ、前身校等から継承されている未調査の貴重資料等の発見を促進し、本学独自の研究発信、図書館のブランド力が高まることを期待している。令和4年度開始。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存	https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=38528	
26	琉球大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	蔵書のデジタル化-コンテンツ活用, 他機関連携	学外における貴重資料の公開事業	「誰でも」「どこからでも」本学の文化資源を享受し、地域の歴史・文化を学修できる環境をつくり、緊密な地域連携を実現するための取組みとして、県内各地の自治体との連携による企画展や公開講座等を開催している。デジタルアーカイブを始め各種SNSを活用した貴重書を紹介するデジタルコンテンツの作成と公開や、本学博物館との合同展示会の開催、教員との連携による市民向け公開講座等を開催している。	重点領域2.知の創出 目標2-2)社会・地域に開かれた知の創出空間の提供	https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/13416/ https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/13494/ https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/okinawa/exhibition/	
27	琉球大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	組織体制整備	研究支援のための体制整備	「審議のまとめ」の(1)今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて、で求められているような機能へ対応するため、組織改編を行った。大学出版会や機関リポジトリ、研究データ管理等を所掌する係を新設した。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信、オープン化と保存		
28	北海道大学	(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて	オープンアクセス-Green OA, 研究データ管理-ポリシー策定, 蔵書のデジタル化-所蔵資料デジタル化, 電子資料整備	電子資料の拡充、デジタル化・オープン化の促進	電子書籍予算の獲得、「電子書籍利用活性化」プロジェクト、国文学研究資料館「歴史的典籍NW事業」への参画、スタンフォード大学「ジャパニーズ・ディアスポラ・イニシアティブ」への資料提供、「北海道大学研究データポリシー」および「ポリシー」についての開設・補足」策定への協力、機関リポジトリに係る規則改正による研究データ対応	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信、オープン化と保存 重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存		
29	東京大学	(2) (1)の機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について	ライブラリー・スキーマ	東京大学附属図書館におけるライブラリー・スキーマ検討の取り組み	東京大学附属図書館におけるライブラリー・スキーマについて、検討グループによる検討を行っている。2023年度内を目処に、総合図書館をモデルとしたライブラリー・スキーマを完成させ、その後は部局図書館をはじめ全学への普及活動を行う予定である。また、取り組みについて令和5年度国大協セミナーで報告する。		・国大協セミナー広報 https://www.janul.jp/ja/news/20231201	
30	東京学芸大学	(2) (1)の機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について	オンラインの「場」-学修支援	東京学芸大学附属図書館「E-TOPIA(イートピア)」ページのリニューアル公開:学生の学びや活動の過程に沿った情報提供	東京学芸大学附属図書館にて平成13年より運用していた「E-TOPIA(イートピア)」(教育情報ポータルサイト)について、令和5年3月に「E-TOPIA:教員を目指す学芸大生のためのページ」としてリニューアル公開した。本ページは、教員を目指す本学学生にとって必要となる情報を一元的に提供することを目的として、学内教員や関係部署からの協力を得て、附属図書館職員によるワーキンググループが構築した。学生の学びや活動の過程に沿ったページ構成を行い、お薦めの図書館資料リストのほか、教育映像コンテンツや教育関係ニュースサイト、授業支援プラットフォーム等に関する情報も提供している。本ページの構成は、次のとおりである。①「教職について知る」、②「授業実践について知る」、③「教育の情報化について学ぶ」、④「教育実習に行く」、⑤「時間のあるうちに活動できること」、⑥「進路に迷ったら…」、⑦「就職活動に向けて」、⑧「図書館を活用する」。また、本ページを拡張する形で、教育支援課程で学ぶ学生に対して情報提供を行うための新たなページの公開に向けて準備を行っている(公開は令和5年度末の予定)。	重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上 重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供 重点領域3.知の媒介 目標3-1)多様な人材との協働	・東京学芸大学附属図書館「E-TOPIA:教員を目指す学芸大生のためのページ」 https://lib.u-gakugei.ac.jp/etopia	
31	東京学芸大学	(2) (1)の機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について	オンラインの「場」-デジタル・アーカイブ, 蔵書のデジタル化-管理基盤整備, 蔵書のデジタル化-コンテンツ活用, 社会連携	東京学芸大学デジタルアーカイブ教育利活用促進事業	本学は、教員養成大学として、学校教育現場におけるデジタルアーカイブ利活用促進事業を展開している。デジタルな空間における協働的な教育実践研究の「場」の提供を目指し、デジタルアーカイブの構築・公開に加え、利活用促進に取り組んでいる。 具体的には、「東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ」を起点とし、学校教材として利活用可能なコンテンツに学習指導要領コード等の教育メタデータを付与し、GIGAスクール時代のデジタル教育コンテンツ連携への参入を目指している。歴史的資料は児童生徒による活用も想定し、市民参加型プロジェクト「みんなで翻刻」で翻刻を進めている。現在、教育現場でも活用が広がるジャパンサーチとの直接連携を進めており、コンテンツ提供基盤が強化される見込みである。 利活用の実践としては、教育関係者との連携を強め、令和3年より継続的に「S×UKILAM:多様な資料の教材化ワークショップ」に参加し、大学教員、小・中・高等学校教員と教材作りに取り組んでいる。令和5年7月には当館のラーニングcommonsを会場として開催し、学内外の学生・現職教員の協働の場を提供することができた。また、附属学校での実践も支援しており、令和4年には附属竹早中学校で生徒によるデジタルアーカイブを活用した授業が行われた。 一連の事業に職員が積極的に関わることで、学校現場の動向や課題等を掴み、教員養成大学としての資料や場の提供への問題意識が醸成され、人材育成にもつながっている。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信、オープン化と保存 重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存 重点領域1.知の共有 目標1-3)知識や情報の発見可能性の向上 重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供 重点領域2.知の創出 目標2-2)社会・地域に開かれた知の創出空間の提供 重点領域3.知の媒介 目標3-1)多様な人材との協働 重点領域3.知の媒介 目標3-2)国立大学図書館職員の能力向上	・瀬川結美, 木越みち, 高井力ほか. デジタルアーカイブの教育利活用を目指して:東京学芸大学附属図書館における「みんなで翻刻」連携と「学校教材発掘プロジェクト」. 大学図書館研究. Vol.121, p.2136-1-10. https://doi.org/10.20722/jcul.2136 ・デジタルアーカイブで「知の循環」を促す【Möbius Open Library Report Vol.19】 https://note.com/mol_expg/n/nf89100bbbeae ・東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/ ・東京学芸大学「学びと遊びの歴史」を翻刻!(「みんなで翻刻」) https://honkoku.org/app/#/projects/gakugei/info ・S×UKILAM(スキラム)連携:多様な資料の教材化ワークショップ https://wtmla-adeac-r.com/	

No.	大学名	取り組みと関連する「審議のまとめ」の項目	キーワード	取り組みテーマ	具体的な内容	取り組みと関連する国大協ビジョン2025の重点領域・目標	URL・文献情報等	その他
32	三重大学	(2) (1)の機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について	物理的な「場」-機能検討、人材育成-物理的な「場」	ラーニングコモンズ担当者による「LiMICSプロジェクト」の活動	学生がユースケースに応じて学内のラーニングコモンズを効果的に使えるようにすることを目的に、図書館を含む学内の情報系4施設の担当者による「LiMICSプロジェクト」を立ち上げ、各施設のラーニングコモンズの機能整理やスペースのリデザイン、広報の統一化等に取り組んでいる。また検討に当たっては、若手職員も他大学の調査や議論に参画しており、本活動が人材育成の機会となっている。	重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供 重点領域3.知の媒介 目標3-1)多様な人材との協働 重点領域3.知の媒介 目標3-2)国立大学図書館職員の能力向上		
33	金沢大学	(2) (1)の機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について	物理的な「場」-蔵書展示	展示スペース「思考の森」の整備	中央図書館の閲覧カウンター前に、金沢大学の過去・現在・未来を通観し、大学で学ぶいろいろな学問への入口となる展示スペースとして、令和4年度に整備。スペース内の各コーナーの概要は次のとおり。①金大史通観コーナー(金沢大学史、大学ゆかりの哲学者・思想家・文学者等、関連する貴重資料等を展示ケース、パネル、デジタルサイネージにより紹介)、②本棚コーナー(本学の教職員、学生・院生が「本棚コーナー」となって、自由な発想で棚を構成できるコーナー)、③学問の入口コーナー(大学で学問を行っていくための入口になるような本を集めたコーナー。令和5年度は1年生向けの本を中心に国際基幹教育院GS科目担当教員推薦の本を配架)	重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供	https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=42610	
34	三重大学	(2) (1)の機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について	物理的な「場」-蔵書展示、他機関連携	博学連携を通じた図書館活動	県内の博物館との連携活動を行う「博学連携推進室」の担当として、博物館との協定締結や協定に基づく活動に携わりながら、博物館と図書館の連携展示など、ML連携を展開している。	重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供 重点領域2.知の創出 目標2-2)社会・地域に開かれた知の創出空間の提供 重点領域3.知の媒介 目標3-1)多様な人材との協働	https://www.mie-u.ac.jp/hakugaku/index.html	
35	琉球大学	(2) (1)の機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について	物理的な「場」-学修支援	デジタル教科書の整備と提供	教員免許の取得を目指す学生全員がデジタル教科書を大学内で利用できる環境を整備し、デジタル教科書に触れることなく教育実習に行くという状況を脱するとともに、デジタル化が進む学校教育現場の状況に対応できる人材を育成することを目標として、附属図書館に電子黒板およびデジタル教科書を利用できる環境を整備するため、正式導入に向けてまずは電子黒板のテスト運用を開始している。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存 重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供	https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/13644/	
36	琉球大学	(2) (1)の機能やサービスを実現するための、情報科学技術及び「場」としての大学図書館の効果的な活用について	物理的な「場」-学修支援、物理的な「場」-人的交流、他機関連携、学内連携	新たな知の創出の場としての図書館施設の利活用	館内に整備したラーニング・コモンズでは、講義だけではなく、ゼミや各種説明会・研修会、交流ワークショップ等の開催場所として活発に利用されている。さらに、学内外の機関等と連携した展示企画や、本学研究推進部門との共催による、学内の新たな共同研究を創出することを目的としたマッチング企画を開催する等、学内外の新しいネットワーク造りの場ともなっている。	重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供	https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/11764/ https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/12396/ https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/13046/ https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/13088/	
37	信州大学	(3) (1)の機能やサービスの実現に求められる人材について	人材育成-DX	DX人材の育成	DXのスキルを持った人材の育成のため、学内外のDXに関する研修(具体的にはRPAやAPIの活用)に職員を参加させた。その成果は、資料の除却準備や機関リポジトリへの登録依頼論文の抽出といった、具体的な業務に活用している。	重点領域3.知の媒介 目標3-2)国立大学図書館職員の能力向上		
38	東京大学	(3) (1)の機能やサービスの実現に求められる人材について	人材育成-オープンアクセス、学内連携	URAとの連携による教職員の意識改革	東京大学リサーチ・アドミニストレーター推進室と共同で研究成果のオープンアクセス化に関する勉強会を開催し、図書館職員を含めた学内教職員への情報提供および意識改革を行っている。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信、オープン化と保存 重点領域3.知の媒介 目標3-1)多様な人材との協働 重点領域3.知の媒介 目標3-2)国立大学図書館職員の能力向上	・URA勉強会 研究成果オープンアクセスの可能性を探索する https://www.ura.adm.u-tokyo.ac.jp/services/view/b2167d67-4bc3-4934-9986-a049478ecef9	
39	大阪大学	(3) (1)の機能やサービスの実現に求められる人材について	人材育成-オープンアクセス、人材育成-研究データ管理、他機関連携	NII研究データエコシステム構築事業人材育成チーム	理化学研究所、東京大学、名古屋大学とともに、NII「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」に参画し、オープンサイエンス推進を課題とする附属図書館研究開発室の専任教員を中心に、「人材育成チーム」を担当している。令和5年6月にオープンアクセス編の動画「オープンアクセスを巡る状況と大阪大学におけるオープンアクセス支援」を、10月に基礎編の動画「オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶ」を学内の授業支援システムに掲載した。期間中自由なタイミングで受講可能としており、多数の教員に受講されている。これらの動画教材については今後一般化の上全国展開を予定している。	重点領域1.知の共有 目標1-1)教育研究成果の発信、オープン化と保存 重点領域3.知の媒介 目標3-2)国立大学図書館職員の能力向上		
40	国立教育系大学図書館協議会(JANUEL)参加館のうちの9大学(北海道教育大学、宮城教育大学、東京学芸大学、上越教育大学、京都教育大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、奈良教育大学、福岡教育大学)	(4) 大学図書館間の効果的な連携について	図書館連携-コンソーシアム、図書館連携-コンテンツ利用契約	国立教育系大学サブ・コンソーシアム	電子ジャーナルScienceDirectについて、国立教育系大学図書館協議会参加館の複数大学(現在9大学:①北教大、②宮教大、③上教大、④学芸大、⑤京教大、⑥兵教大、⑦奈教大、⑧福教大、⑨大教大)にて、エルゼビア社とJUSTICE提案を基本とした共同購読にかかる「サブ・コンソーシアム契約」を締結し、複数機関の契約を取りまとめ、3年間の複数年契約等を行い、教育系大学の事情に配慮した措置の適用を受けている。またScopusについては、北教大、学芸大、兵教大、大教大の4大学にてサブ・コンソーシアム向け提案を受け、契約している。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存	・国立教育系大学図書館協議会JANUELホームページ https://lib.u-gakugei.ac.jp/januel/ ただし、総会議事等は加盟館専用ページにて限定共有しており、一般公開はしていない。	

No.	大学名	取り組みと関連する「審議のまとめ」の項目	キーワード	取り組みテーマ	具体的な内容	取り組みと関連する国大協ビジョン2025の重点領域・目標	URL・文献情報等	その他
41	北海道国立大学機構(小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学)	(4) 大学図書館間の効果的な連携について	図書館連携-コンテンツ利用契約、 図書館連携-意見交換	経営統合を契機とした連携強化	3大学図書館間でのTeamsを使った日常的な意見交換、一部電子ジャーナル契約の一本化	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存	令和5年度北海道地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー配付資料「北見工業大学図書館の取り組み～3大学経営統合・DXの推進～」	
42	東京大学、お茶の水女子大学	(4) 大学図書館間の効果的な連携について	図書館連携-サービスの共通化	東京大学・お茶の水女子大学の相互利用	「国立大学法人東京大学と国立大学法人お茶の水女子大学の連携及び協力に関する包括協定書」に基づき、東京大学総合図書館・駒場図書館とお茶の水女子大学附属図書館での相互利用を実施することで、2023年4月に開講された共通科目の受講生をサポートしている。	重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供		
43	国立教育系大学図書館協議会(JANUEL)参加館のうちの11大学(北海道教育大学、宮城教育大学、東京学芸大学、上越教育大学、愛知教育大学、京都教育大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、奈良教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学)	(4) 大学図書館間の効果的な連携について	図書館連携-事業検討、 図書館連携-意見交換	国立教育系大学デジタル教科書連携	文部科学省が進めるGIGAスクール構想の実現に向け、教育系大学では学生にデジタル教科書をはじめとしたICT活用能力を育成することが喫緊の課題となっている。図書館においてもこれを支援するため、どういった取り組みが必要かを、国立教育系大学図書館協議会参加館で情報を共有しながら検討を進めている。	重点領域1.知の共有 目標1-2)図書館資料の整備と利用のための保存	大学図書館研究 124号(2023年9月)「国立教員養成系大学におけるデジタル教科書をめぐる現状と課題令和5年度のスナップショットとして」 DOI:10.20722/jcul.2157	
44	京都大学、大阪大学、神戸大学	(4) 大学図書館間の効果的な連携について	図書館連携-事業検討、 図書館連携-意見交換	京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び神戸大学附属図書館の連携・協力活動	三館の連携・協力活動にかかる協定書を締結し、SlackやZoomを利用して職員同士が気軽にコミュニケーションをとれるネットワークづくりを行った。また展開事業として、「統合イノベーション戦略2023」対応策検討への参画、大学図書館の本質的機能とオープンサイエンス時代におけるその表現についての検討を進めている。	重点領域3.知の媒介 目標3-2)国立大学図書館職員の能力向上	「京大・阪大・神戸大 3図書館が連携・協力協定」『文教速報』第9284号、2023-7-10、p.4	
45	国立大学図書館協会 東京地区協会	(4) 大学図書館間の効果的な連携について	図書館連携-意見交換	東京地区大学図書館間での人材育成	国立大学図書館協会東京地区協会の会員館で「東京地区Open Library」を開催し、各図書館の見学会および職員間での意見交換等を行うことで機関を超えた人的な繋がりを強め、地区全体の職員の人材育成を行っている。2023年12月末時点で、7機関が見学会・意見交換等を企画・実施している。	重点領域2.知の創出 目標2-1)知を創出する場の拡大・整備・提供 重点領域3.知の媒介 目標3-2)国立大学図書館職員の能力向上	その他の事業(東京地区協会) https://www.janul.jp/ja/regional/tokyo/other_tokyo	
46	東海国立大学機構(岐阜大学、名古屋大学)	審議のまとめ全体に関連	人材育成、 図書館連携-事業検討、 図書館連携-意見交換	東海国立大学機構(岐阜大学・名古屋大学)図書館の将来構想の検討	(活動の概要) 東海国立大学機構(岐阜大学・名古屋大学)では、両大学図書館共通の「グランドデザイン2021」を定め、これに基づき、各事項の推進及び人材育成を推進するために、令和3年度から、両大学図書館職員共同のプロジェクトチーム(PT)を編成し活動している。 審議のまとめを受けて、令和5年度は、従来の「図書館DX・連携サービスPT」を「図書館将来構想PT」に再編し、将来の「デジタル・ライブラリー」としてあるべき姿、実現に向けた計画や課題解決の方法について、審議まとめの以下の4つの切り口で考え、図書館全体で共有することとしている。 ・今後図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービス ・「場」としての大学図書館の効果的な活用方法 ・これからの図書館職員に必要とされる知識やスキル ・大学図書館間の効果的な連携 さらに、図書館から大学執行部へ審議まとめの説明を行い、教員をメンバーとした「図書館の新グランドデザイン検討WG」を立ち上げ、令和6年度中に活動することを予定している。 (具体的な取り組み) ・図書館全体でのオンライン意見交換会「デジタル・ライブラリー」を考えよう!を2回開催(R5.3、R5.10) ・両大学の図書館職員14名をメンバーとした「図書館将来構想PT」を設置し、オンラインでのミーティングや共同作業を中心に検討を進め、2050年までのロードマップ案を作成中 (各課課長もアドバイザーとして参加)(R5.4～) ・東海国立大学機構内の「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方部会」委員及び「『2030デジタル・ライブラリー』推進に関する検討会」委員とPTとの意見交換会を開催(R5.6)	重点領域3.知の媒介 目標3-2)国立大学図書館職員の能力向上		取り組みと関連する国大協ビジョン2025について： 東海国立大学機構(岐阜大学・名古屋大学)合同図書館プロジェクトチームの活動は、研修等に代わる人材育成の一環としての側面があるため選択しました。